



家庭で起こる冬期の事故に注意しましょう！

お餅による窒息にご注意！

-お餅を食べる機会の多い今の時期、高齢者や子どもに起きています-

【事例1】食事中に5センチ大の餅が喉に詰まり、倒れた。救急搬送し病院で処置をもらったが、死亡した。

【注意していただきたいこと】

- ・お餅は、あらかじめ食べやすく小さく切っておきましょう。
- ・お餅を食べる前に、喉を潤すため、先に汁物など水分をとり、お餅はゆっくりよくかみ、唾液とよく混ぜ合わせましょう
- ・食事の際は、高齢者や子どもに、よく注意を払いましょう。
- ・喉に詰まった際の応急手当を確認しましょう。



入浴中の事故にご注意！ -高齢者に多い事故です-

【事例2】20時半頃から入浴し、1時間後入浴時間が長いため家族が心配になり浴室へ様子を見に行くと、浴槽内で湯船に顔まで浸かっていた。

【注意していただきたいこと】

- ・入浴前に脱衣所や浴室を暖める。
- ・油温は41度以下、湯につかる時間は10分を目安。
- ・浴槽からはゆっくり立ち上がる。
- ・食後すぐや、飲酒後、医薬品服用後の入浴はさける。
- ・入浴の前に家族に声をかけ、注意してもらおう。



暖房器具等の使用による低温やけどにご注意

【事例3】腰にカイロを貼り、電気毛布を付けたまま就寝した。翌朝カイロを剥がすと痛痒さがあり皮膚科を受診。表皮剥離が見られ、Ⅱ度*熱傷と診断された。

【注意していただきたいこと】

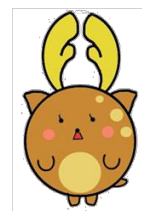
- ・低温やけどを防ぐためには、長時間同じ場所を暖めない。
- ・暖房器具や湯たんぼ、カイロ等を使用する場合は、製品の使用上の注意をよく読む。
- ・就寝時は、布団が暖まったら湯たんぼやあんかは布団から出す、カイロは使用しない、電気毛布は高温で使用しない。
- ・低温やけどは水で冷やしても効果がありません。見た目より重症の場合がありますので、痛みや違和感がある場合は医療機関を受診しましょう。

(参考)
やけどを負うまでの時間

温度	使用時間
44℃	3～4時間
46℃	30分～1時間
50℃	2～3分

※やけどの深度

I度熱傷	表皮のみ
II度熱傷	表皮より深い真皮まで
III度熱傷	皮膚全層、さらに皮下組織まで及ぶ



しっかり君

困ったときは消費者ホットライン188(いやや!)にご相談ください！